

1. 事業報告並びに事業計画

- (1-1) 日本放射線影響学会第 67 回大会 (2024 年) の準備状況 (大会長：岡崎龍史 学術評議員)
- 1-1-1 開催日：令和 6 年 (2024 年) 9 月 25 日 (水) ~28 日 (土)、対面開催
9 月 27 日 (金) ~28 日 (土) 第 12 回日本放射線事故・災害医学会年次学術集会との合同大会
9 月 28 日 (土) SIT (Scholars in Training) ワークショップ (講師：甲斐倫明 先生、續輝久 先生、金政浩 先生) を学会内に組み入れ。
- 1-1-2 開催場所：北九州国際会議場 (北九州市小倉北区浅野 3 丁目 9-30)
- 1-1-3 テーマ：「語ろう！放射線 -これからの放射線課題のいしずえ-」
- 1-1-4 実行委員長は香崎正宙 学術評議員 (産業医科大学)、プログラム委員長は小嶋光明 理事。
- 1-1-5 4 大シンポジウムテーマ 医療被ばく (放射線影響懇話会 (会長：岡崎龍史 学術評議員) と共催、藤淵俊王 先生、大野和子 先生、2 名の外国人 (韓国、インドネシアから招聘)、低線量放射線影響 (Tom Hei 先生、CE Mothersill 先生、Ignacia Tanaka 先生、香崎正宙 学術評議員)、放射線教育 (松本義久 常任理事、岡崎龍史 学術評議員、赤羽恵一 先生、長谷川有史 先生、越智小枝 先生)、原子力・放射線災害対応 (山下俊一 先生、ウクライナの Sushko 先生、原子力規制委員会伴信彦氏を招聘予定)。
- 1-1-6 合同大会内容：
9 月 27 日 (金)：「放射線教育」、「原子力災害時の避難と屋内退避 災害関連死を防ぐために」、「原子力・放射線災害対応」のシンポジウム
9 月 28 日 (土)：最近の事件事例 (明石真言 先生)、アメリカ原子力施設の規制と推進 (長谷川有史 先生)、福島原発事故の当時とその後一産業医の立場から (東電産業医菊地央 先生)、4 学会放射線事故対策シンポジウム (保健物理学会、産業衛生学会)
- 1-1-7 9 月 25 日 (水) JASTRO 合同企画「放射線治療の現状と生物学的評価 (HIMAT と FLASH)」
- 1-1-8 シンポジウム計 10 題、ワークショップ 8 題の採択。ワークショップ 1 演題不採択。
- 1-1-9 一般演題募集期間は 5 月 1 日~6 月 14 日予定。
- 1-1-10 9 月 25 日 (水) 放射線衛生管理学セミナー1 (小倉城)、9 月 26 日 (木) 放射線衛生管理学セミナー 2 (皿倉山)、9 月 27 日 (金) リーガロイヤルホテル小倉で懇親会。
- 1-1-11 9 月 28 日 (土) 16 時から市民公開講座「最近の放射線治療」。
- 1-1-12 9 月 28 日 (土) 日本医師会認定産業医 (3 単位) 及び 9 月 27 日 (金) ~28 日 (土) 産業保健看護専門家 (10 単位) の単位申請中。
- (1-2) 日本放射線影響学会第 68 回大会 (2025 年) の準備状況 (大会長：田代聡 理事長)
- 1-2-1 開催日：令和 7 年 (2025 年) 10 月 24 日 (金) ~26 日 (日)
- 1-2-2 開催場所：広島国際会議場
- 1-2-3 テーマ：原爆被爆 80 年からの放射線影響研究
- 1-2-4 第 6 回アジア放射線研究会議と合同開催。
- 1-2-5 10 月 26 日 (日) は、原爆後障害研究会と同時開催の予定
- 1-2-6 共同利用・共同研究拠点「放射線災害・医科学研究拠点」国際シンポジウムを合同で開催
- 1-2-7 シンポジウム 6 題、ワークショップ 10 題予定
- 1-2-8 原爆被爆 80 年に関連する特別シンポジウム、ワークショップを企画予定。
- 1-2-9 実行委員会委員長は、東幸仁 会員 (広島大学原医研所長)、プログラム委員会委員長は吉永信治 会員 (広島大学原医研教授)、事務局長は、笹谷めぐみ 理事 (広島大学原医研准教授) で運営。
- 1-2-10 市民公開講座は、10 月 26 日 (日) 午後に原爆後障害研究会と合同で開催予定。
- 1-2-11 10 月 25 日 (土) に懇親会を ANA クラウンホテル広島で開催予定。
- (1-3) 日本放射線影響学会第 69 回大会 (2026 年) の準備状況 (大会長：床次眞司 学術評議員)
- 1-3-1 開催日：令和 8 年 9 月予定
- 1-3-2 開催場所：弘前大学創立 50 周年記念会館
- 1-3-3 テーマ：検討中
- (1-4) 共催・協賛・後援
- 1-4-1 令和 5 年 (2023 年) 10 月 21 日 (土) ~令和 6 年 (2024 年) 5 月 31 日 (金) までに共催・協賛・後援を決定した学術集会等は下記参照。
- 【共催】原子力総合シンポジウム 2023、主催：日本学術会議 総合工学委員会、総合工学委員会 原子力安全に関する分科会、開催日：令和 6 年 (2024 年) 1 月 22 日 (月)、開始場所：日本学術

会議講堂およびオンライン

- 【共催】第25回「環境放射能」研究会、主催：高エネルギー加速器研究機構放射線科学センター 日本放射化学会 α 放射体・環境放射能部会、開催日：令和6年（2024年）3月11日（月）～13日（水）、開催場所：高エネルギー加速器研究機構（茨城県つくば市）での発表・視聴およびオンライン視聴（口頭発表のみ）
- 【後援】第24回 菅原・大西記念 癌治療増感シンポジウム、主催：国際癌治療増感研究協会（IASCT）、開催日：令和6年（2024年）2月17日（土）～18日（日）、開催場所：ホテル機山館
- 【後援】放射線の生体影響と利用に関する国際会議、主催：BEAR2024 組織委員会、開催日：令和6年（2024年）3月15日（金）～17日（日）、開催場所：東京工業大学デジタル多目的ホール
- 【協賛】第15回核融合エネルギー連合講演会、主催：第15回核融合エネルギー連合講演会 組織委員会、開催日：令和6年（2024年）6月13日（木）～14日（金）、開催場所：八戸市公民館

(1-5) 各種推薦
該当なし

(1-6) 理事会の開催
令和5年度第7回理事会（令和5年（2023年）10月30日（月）～11月1日（水））、第8回理事会（令和6年（2024年）1月24日（水）～29日（月））、第9回理事会（令和6年（2024年）2月20日（火）～22日（木））、第10回理事会（令和6年（2024年）3月26日（火）～28日（木））、第11回理事会（令和6年（2024年）5月27日（月）～29日（水））をメール会議で開催した。

(1-7) 社員総会の開催
令和5年度第2回社員総会（令和5年（2023年）11月5日（日））を対面形式で、第3回社員総会を（令和6年（2024年）3月12日（火）～15日（金））をメール会議で開催した。

(1-8) 会員総会の開催
会員総会を令和5年（2023年）11月8日（水）に対面形式で開催した。

2. 各委員会からの活動報告及び活動予定

(2-1) 財務委員会（委員長：細谷紀子 副理事長、副委員長：田代聡 理事長）

- 2-1-1 随時、予算の執行状況を調査し、特段の問題が無いことを確認した。
- 2-1-2 令和5年（2023年）8月30日施行の「旅費取扱規程」の円滑な運用のため、随時、関係する委員長（理事）と協力し、申請内容の精査を実施している。
- 2-1-3 令和5年度（2023年度）も、科研費によるJRR誌の掲載費用支援（掲載費を学会からOUPへ直接支払い、著者の支払いを免除）を実施した。令和5年度（2023年度）の支援件数は、令和4年（2022年）のRadiation Research Society (RRS) Annual Meetingの招待演者の志村浩己氏による原著論文を含めて3件であった。
- 2-1-4 令和5年度（2023年度）科研費の実績報告書を作成し、提出した。
- 2-1-5 令和6年度（2024年度）の科研費（研究成果公開促進費（国際情報発信強化））に応募したが、不採択となった。そのため、令和6年度（2024年度）は、JRR誌の掲載費用支援を実施しないこととなった。今後の財政改善に資する方策として、外部資金への積極的な応募、令和6年度（2024年度）に計上した各委員会の予算の精査と見直しの実施、事務局への業務委託内容についての精査・検討を進めている。
- 2-1-6 令和5年度（2023年度）の決算書類（出納帳データと証憑ファイル）の確認を行い、会計事務所に決算報告書の作成を依頼した。会計事務所が作成した決算報告書を確認の上、監事2名に監査を依頼し、承認された。
- 2-1-7 令和6年（2024年）6月15日に財務委員会を開催する。

(2-2) 編集委員会（委員長：近藤 隆 会員、担当理事：松本義久 常任理事）

- 2-2-1 計画通りJRR誌を定期的に発行した。
論文投稿から最終判断までの時間短縮のため、査読に値しないと判断した論文はassociate editorへの依頼の段階でreject、あるいはdecline-but encourage resubmissionを判断していただくようにした。

(2-3) 広報出版委員会（委員長：富田雅典 常任理事、副委員長：大野みずき 学術評議員、論文紹介企画小委員会委員長：安井博宣 学術評議員）

- 2-3-1 メーリングリスト (eikyo_tsushin-ml@criepi.denken.or.jp) による学会通信配信を随時実施した。添付ファイルの自動暗号化が廃止されたため、今後は添付ファイル付きのアナウンスも配信する。ただし、My Page 掲載の都合上、ファイル名に日本語名・全角文字は使用できないのでご留意いただきたい。現在、会員からの配信依頼は、Forms で受け付けている。令和 5 年（2023 年）は、233 件配信した（令和 4 年（2022 年）は 280 件）。令和 6 年（2024 年）は、5 月 27 日時点で 81 件である。配信担当者（委員長）の負担軽減のため、年末・年始と夏季に 1 週間の配信休止期間を設けている。現在の登録者数は 725 名である。
- 2-3-2 学会ホームページの更新を随時実施するとともに、更新・活用されていないページの削除や誤字の修正等を行った。
- 2-3-3 公式サイトへのバナー広告の掲載について引き続き検討を行い、バナー広告掲載基準（案）を作成した。次期の規約委員会にて検討いただいた後に適宜修正等を行い、理事会に諮る予定。
- 2-3-4 最新論文情報を、令和 5 年（2023 年）は計 19 件掲載した。令和 6 年（2024 年）は 3 月末までに 7 件掲載した。次期の論文紹介企画小委員会が承認された後に、紹介を再開する。

(2-4) 放射線災害対応委員会（委員長：松本義久 常任理事、副委員長：宇佐美徳子 会員）

- 2-4-1 委員会はメール会議を中心に進めており、これまでに以下の事案に対応した。
- 2-4-2 令和 5 年（2023 年）度の放射線セミナーは、9 校において 16 回実施した（同一学校、同一学年に対するセミナーは、基本的に内容が同一であるため、1 回と数える。同一学校であっても学年が異なる場合には、一般に内容が異なるため、別々に数える）。郡山市教育研修センターとの連携による郡山市内小中学校での実施が 13 回、南会津中学校で 3 回である。放射線セミナーは東工大基金理科教育振興支援「ものづくり人材の裾野拡大ならびに STEM 教育の推進支援プロジェクト」の採択を受けている。また、派遣旅費の一部は福島イノベーションコースト構想推進機構から支援を受け、また一部は量子科学技術研究開発機構の協力のもとに行った。
- 2-4-3 6 月 5 日に開催された福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会（ANFURD）全体会議に出席し、本学会の取り組みについての報告を行った。
- 2-4-4 前回の社員総会から今回までの間に、一般の方からの問い合わせ 2 件に回答した。
- 2-4-5 企画段階のテレビ番組に関わる取材への対応を行った。

(2-5) 企画委員会（委員長：田代聡 理事長、副委員長：笹谷めぐみ 学術評議員、自然災害対応担当理事：田代聡 理事長、SIT プログラム小委員会委員長：平山亮一 学術評議員）

- 2-5-1 令和 6 年（2024 年）の第 67 回大会は、岡崎龍史 学術評議員（産業医科大学）を大会長として福岡で開催する。なお、第 67 回大会の一部を日本放射線事故・災害医学会と共催して行う予定である。
- 2-5-2 令和 7 年（2025 年）の第 68 回大会は、田代聡 理事長（広島大学）を大会長として広島で開催する。なお、第 68 回大会は第 6 回アジア放射線研究会議と合同で行う予定である。また、原爆後障害研究会、共同利用・共同研究拠点「放射線災害・医科学研究拠点」国際シンポジウムを同時に開催する予定である。
- 2-5-3 令和 8 年（2026 年）の第 69 回大会は、床次眞司 学術評議員（弘前大学）を大会長として弘前で開催する予定である。
- 2-5-4 2023 年の第 66 回大会開催にむけて、大規模自然災害に関する大会参加費免除の案内を行い、その結果を理事会へ報告した。
- 2-5-5 日本アイソトープ協会が主催するアイソトープ・放射線研究発表会へ協賛学協会として企画運営に参画した。運営委員を通じて、特別講演およびパネル討論を企画し、両課題が採択された。2024 年 7 月 3 日（水）～7 月 5 日（金）で開催される第 61 回アイソトープ・放射線研究会にて、特別講演およびパネル討論が行われる予定である。
- 2-5-6 放射線リスク・防護検討委員会との合同により、第 4 回 ICRP 次期主勧告ウェビナー（2023 年 10 月 27 日（金））を開催した。
- 2-5-7 本学会のロードマップを作成し、理事会での承認を得た。現在、学術委員会とも協議を行い最終案を作成中である。
- 2-5-8 令和 6 年（2024 年）第 1 回社員総会（2024 年 6 月 15 日（土））と同時開催のキャッチアップセミナーを行う予定である。

(2-6) グローバル化委員会（委員長：今岡達彦 副理事長、副委員長：三浦雅彦 学術評議員、若手部会部会長：神崎訓枝 会員、FLASH 研究部会部会長：平山亮一 学術評議員、庶務補佐：藤通有希 会員）

- 2-6-1 国際放射線研究連合（IARR）で昨年制定された新しい定款・細則では、日本放射線研究連合（JARR）

から合計 3 名の Councilor を推薦することが可能になった。すでに原田浩 学術評議員が選出されており、追加の 2 名について JARR での審議の結果、高橋昭久 学術評議員と、田代聡 理事長が選出された。

- 2-6-2 令和 6 年 (2024 年) 2 月 18 日 (日) に開催された 2024 年度第一回 JARR 幹事会において、会長として島田義也 監事、副会長として三浦雅彦 学術評議員、庶務幹事として飯塚大輔 学術評議員、監事として原田浩 学術評議員が選出された。今後の活動として、ICRR の次期日本誘致について、JARR 構成学会にその意向を確認していくとともに、JARR の参画学協会の増加を図る検討をしていく方針が示された。
- 2-6-3 放射線影響協会及び JARR の海外研究者招へい旅費の助成の下、ICRP2023 のサテライトイベントとして、第 66 回大会において「Next generation of radiotherapy and radioprotection based on precise radiosensitivity」を令和 5 年 11 月 6 日 13:15~15:15 に開催した (JRRS 側オーガナイザー: 原田浩 学術評議員/JASTRO 生物部会側オーガナイザー: 松本義久 常任理事、日本放射線影響学会 (JRRS) 主催、日本放射線腫瘍学会 (JASTRO) 生物部会後援、日本学術振興会 (JSPS) 研究拠点研究事業協賛)。
- 2-6-4 本学会と JASTRO の覚書に基づく合同企画として、JASTRO 第 36 回学術大会 (大会長: 茂松 直之 理事長、会場: パシフィコ横浜ノース、令和 5 年 12 月 1 日 14:20~16:20,) にて学会合同シンポジウム「放射線増感効果が期待できる新薬」を開催した (JRRS 側座長: 三浦雅彦 学術評議員/JASTRO 側座長: 原田浩 学術評議員、演者: 柴田淳史 学術評議員/石川仁 先生 (QST)/高橋智聡 先生 (金沢大)/山本昇 先生 (がんセ・中央病院))。
- 2-6-5 同じく、本学会と JASTRO の覚書に基づく合同企画として、第 67 回大会 (岡崎龍史 大会長) にて学会合同シンポジウム「重粒子線治療と FLASH 治療」を開催予定であり、本企画に関して JASTRO の承認を得た (令和 6 年 9 月 25~28 日北九州、JRRS 側オーガナイザー: 岡崎龍史 学術評議員・小嶋光明 理事/JASTRO 側オーガナイザー: 大栗隆行 先生 (産業医大)、JRRS 側座長: 平山亮一 学術評議員/JASTRO 側座長: 塩山善之 先生 (九州国際重粒子線がん治療セ)、演者: 皆巳和賢 先生 (阪大)/吉田由香里 学術評議員/松延亮 先生 (HIMAT)/松本孔貴 会員)。
- 2-6-6 「日本放射線技術学会と日本放射線影響学会の学術交流促進に関する覚書」について、両学会の理事会承認手続きを行い、令和 5 年 (2023 年) 12 月 21 日に調印に至った。今後、本覚書に基づいて学術交流を実施していく予定である。
- 2-6-7 若手部会では、第 66 回大会にて、若手部会会員総会を開催して活動報告や意見聴取を行い、若手優秀論文賞を日本原子力研究開発機構 環境技術開発センター 基盤技術研究開発部 廣瀬エリ会員に授与した。ワークショップ「留学のすゝめ Season 2」では、若手のキャリアパス支援を目的として、ロールモデルとなる若手研究者 4 名にご自身の留学体験談をご講演いただいた (担当者: 孫略 若手部会役員、キャリアパス・男女共同参画委員会と JSPS 事業「生体内の複雑系を対象とする統合放射線科学の国際研究拠点の形成」の共催)。第 67 回大会でも、若手部会会員総会とワークショップを開催できるよう準備を進めている。また、第 4 回若手放射線影響研究会の準備も進めており、学生への旅費助成を目的として公益財団法人 中辻創智社 会議開催費助成に応募し、採択された (助成額: 25 万円)。その他、満 40 歳以上であっても若手部会の活動を継続できる条件を定める若手部会規程の改訂を行ったが、該当者 2 名から申し出があり、育児や経歴を理由にそれぞれ半年間または 1 年間の延長が認められた。部会員数は、令和 6 年 3 月 16 日時点で 92 名である。令和 6 年度は、第 4 回若手放射線影響研究会 (若手優秀発表賞表彰を含む)、第 67 回大会における若手部会企画ワークショップと若手部会会員総会 (若手優秀論文賞表彰を含む)、若手キャリアパス支援等の活動を予定している。
- 2-6-8 FLASH 研究部会では、国内での FLASH 研究を実施している施設や実施を予定している研究施設、研究組織をリストアップして、会員への情報公開に向けて取りまとめた。今後、影響学会通信にて会員への周知を行う予定。
- 2-6-9 庶務補佐 (Zoom 管理業務) については、2023 年度の Zoom 会議使用実績は 3 件。Zoom Pro 年間使用料の直近の更新月は 2024 年 4 月であったが、昨今の社会状況や使用状況をふまえて関連理事で協議した結果、Zoom との再契約は行わないこととし、6 月末にてアカウント削除予定である。今後の希望の状況によって、月単位の契約も含めて、再契約に関して検討することとなった。
- (2-7) キャリアパス・男女共同参画委員会 (委員長: 飯塚大輔 学術評議員、副委員長: 石川純也 学術評議員、担当理事: 坂田律 理事)
- 2-7-1 令和 5 年 (2023 年) 11 月 7 日 (火) に、日本放射線影響学会第 66 回大会において第 10 回キャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナー「影響学会における男女共同参画の『あゆみ』と『これから』」を開催した。今回のセミナーでは、特別講演とパネル討論を通して、男女共同参画に関し、社会や学会において、この 10 年で変わったこと、変わらないことを整理し、今後、どのような活動が求められるのか考えるきっかけとすることを目指した。開催報告書は、影響学会通信で会員に公表するとともに、委員会の HP に掲載した。

- 2-7-2 男女共同参画に関わる大会参加支援として、第 66 回大会で「託児費用援助」の申請を受け付けたところ、2 件の応募があった。理事会での審議の結果、2 件とも支給対象となった。
- 2-7-3 第 66 回大会における属性調査として、参加者と演題発表者の女性比率について、大会長のご協力を得て、参加登録者情報、大会プログラムなどから算出した。第 66 回大会の参加者の女性比率は 27.0%で、会員における女性比率 (21.9%) を上回っていた。また、ワークショップ及びシンポジウムにおける発表者の女性比率が 27.7%になったことに加え、ポスター発表者の女性比率は 34.0%であった。特に女性研究者からのワークショップ及びシンポジウム発表と、ポスター発表の積極的な応募があったことが伺えた。本属性調査は、委員会の HP に掲載した。
- 2-7-4 令和 5 年 (2023 年) 11 月 7 日 (火) ~12 月 8 日 (金) にかけて、Google フォームを利用した「2023 年度キャリアパス・男女共同参画アンケート」を、全会員を対象に実施し、第 10 回委員会企画セミナーの感想や今後のセミナーへの要望、第 67 回~第 68 回大会の開催地における保育サービス利用のニーズ、様々な事情やニーズを抱える会員が学会の活動により参加しやすくするための提案、キャリアパス・男女共同参画活動に関する意見・要望を広く収集した。第 10 回委員会企画セミナーについては、為近恵美先生 (横浜国立大学) による特別講演、歴代キャリアパス・男女共同参画委員会委員長、若手やシニア世代会員のパネリストによる経験談やお考えに対し、幅広い年代の参加者から好評を得たことが分かった。次回の第 67 回大会でも引き続きお昼の時間帯にランチョンセミナー形式で実施させていただき、できるだけ多くの方に参加いただけるようにしたいと考える。
- 大会開催地での託児のニーズは、第 67 回大会 (北九州) で子ども 2 名、第 68 回大会 (広島) で子ども 2 名という結果であった。第 68 回大会では未定という方も 1 名いらっしやった。様々な事情やニーズを抱える会員が学会の活動により参加しやすくするための提案として、「託児費用援助制度」の継続の希望のほか、第 66 回大会で一部実現した委員会企画セミナーを含む大会のオンライン開催併用については、さらなる拡充も含め希望する声が聞かれた。
- 2-7-5 平成 28 年 (2016 年) 度より男女共同参画学協会連絡会にオブザーバー加盟学協会として参加していたが、令和 5 年 (2023 年) 11 月 1 日 (水) より正式加盟学協会となった。
- 2-7-6 学会通信やホームページを活用した情報発信を適宜行った。
- (2-8) 規約委員会 (委員長: 小林純也 副理事長、副委員長: 鈴木正敏 学術評議員)
- 2-8-1 監事候補推薦委員会に関する詳細事項を定める選挙規程細則制定のため、令和 5 年度 (2023 年度) 第 3 回規約委員会を令和 5 年 (2023 年) 12 月 20 日 (水) ~27 日 (水) に、第 4 回規約委員会を令和 6 年 (2024 年) 1 月 24 日 (木) ~31 日 (木) にメールで開催して、議論をおこない、選挙規程細則案を理事会に報告した。選挙規程細則案は令和 5 年度第 9 回理事会で承認され、制定された。
- 2-8-2 学生会員に社会人大学院生を含めることに関する定款改定について第 4 回規約委員会で議論し、改定案を理事会に報告した。改定案は令和 5 年度理事会で承認された。続いて令和 5 年度第 3 回社員総会で承認された。
- 2-8-3 令和 5 年度 (2023 年度) 第 5 回規約委員会を令和 6 年 (2024 年) 5 月 29 日 (水) ~6 月 2 日 (日) にメールで開催し、広報出版委員会から依頼があったバーナー広告掲載基準案について審議を行い、審議結果を広報出版委員会委員長に報告した。
- (2-9) 賞等選考委員会 (委員長: 坂田律 理事、副委員長: 篠原美紀 会員)
- 2-9-1 日本学術振興会賞育志賞 受賞等、事務局宛に届いた受賞候補者推薦募集をメーリングリストを通じて行ったが、学会推薦への応募はなかった。
- (2-10) 学術委員会 (委員長: 坂田律 理事、副委員長: 篠原美紀 会員)
- 2-10-1 被ばく低減対策ワークショップ、アイソトープ・放射線研究発表会、第 32 回放射線利用総合シンポジウム等の開催についてメーリングリストを通じて行った。
- 2-10-2 科学技術振興機構 (JST) の戦略的創造研究推進事業、藤原セミナー募集等セミナー開催助成、研究助成の募集をメーリングリストを通じて行った。
- (2-11) 倫理委員会 (委員長: 田内広 学術評議員、担当理事: 富田雅典 常任理事)
- 2-11-1 新たな理事会組織のスタートに備え、COI マネジメントに関する指針および同指針施行細則に従った COI 確認様式の最新版資料を事務局に提出した。
- (2-12) 教育研修委員会 (委員長: 吉野浩教 理事、副委員長: 野田朝男 会員)
- 2-12-1 日本放射線影響学会第 67 回大会主催の市民公開講座の企画について、岡崎龍史 大会長より承認の依頼があった。委員会で企画内容を審議した結果、市民公開講座の企画が承認された。市民公開講座は令和 6 年 (2024 年) 9 月 28 日 (土) 16:00-17:00 に開催される予定で、内容は「放射線治療の最前

線」、講師は大栗隆行 先生（産業医科大学）である。

2-12-2 放射線影響研究所が主催する「生物学者のための疫学研修会」が令和6年（2024年）度も開催される予定で、現在準備中とのことである。

(2-13) 放射線リスク・防護検討委員会（委員長：小嶋光明 理事、副委員長：小林純也 副理事長）

2-13-1 令和5年（2023年）4月～10月にかけてICRP次期主勧告ウェビナーを企画委員会と共催で4回にわたって開催した。第1回は4月28日（金）、第2回は6月16日（金）、第3回は8月4日（金）、第4回は10月27日（金）に実施し、参加者数は、第1回が208名、第2回が269名、第3回が215名、第4回が187名で、合計879名となった。参加者の主な所属学会（複数回答）としては、日本診療放射線技師会（52%）、日本放射線技術学会（45%）、日本放射線腫瘍学会（21%）、日本医学物理学会（20%）、日本放射線影響学会（18%）、日本公衆安全学会（16%）、日本保健物理学会（13%）、日本アイソトープ協会（13%）などであり、多くの関連学会と情報を共有する場になったと思われる。現在、影響学会会員限定で2024年7月31日まで全4回の講演の見逃し配信を行っている。

2-13-2 今後の活動としては、

- 1) ICRP次期主勧告ウェビナーのミーティングレポートを作成し、「放射線生物研究」に投稿する予定である（原稿を執筆中）。
- 2) ICRP次期主勧告ウェビナー参加者から挙げられた今後取り上げて欲しいテーマ（トリチウムによる生物影響、医療被ばくに対する個人の放射線感受性の最新動向、低線量率研究の現状、宇宙飛行士の被ばくと人体への影響、放射線による白内障の線量限度に関する経緯と予測、など）を次期委員と共有し、ウェビナーの継続につなげていきたいと考えている。
- 3) 令和6年（2024年）9月25日（水）に日本放射線影響学会第67回大会で「放射線防護のエビデンス構築に繋げるための生物研究～組織反応・確率的影響研究の現状と課題～」と題したワークショップを開催する。

(2-14) 学会事務局

2-14-1 会員動向：令和5年（2023年）10月20日（金）現在（括弧内は令和5年（2023年）6月1日（木）時点「マイページ」登録者数*在籍者のみ）

- 名簿（「マイページ」登録者）：学会員総数757（740）名・うち女性166（162）名
正会員545（567）名・うち女性126（134）名、学生会員85（47）名・うち女性26（14）名、海外会員9（10）名・うち女性1（1）名、名誉会員40（40）名・うち女性1（1）名、功労会員7（7）名・うち女性0（0）名、終身会員71（69）名・うち女性12（12）名。

2-14-2 会員動向：令和6年（2024年）5月31日（金）現在（括弧内は令和5年（2023年）10月20日（金）時点「マイページ」登録者数*在籍者のみ）

- 名簿（「マイページ」登録者）：学会員総数731（757）名・うち女性158（166）名
正会員549（545）名・うち女性129（126）名、学生会員51（85）名・うち女性15（26）名、海外会員12（9）名・うち女性1（1）名、名誉会員39（40）名・うち女性1（1）名、功労会員7（7）名・うち女性0（0）名、終身会員73（71）名・うち女性12（12）名。

以上